

教宣 せぶん

三 寒 四 温 の 過 ご し 方

「三寒四温」という言葉があります。もうすぐ春を迎える今の気候にピッタリの言葉ですが、会社と壮絶な(?)たたかいを繰り返している、いまの私たちの心情を表す言葉としても適切なのではないのでしょうか。「進路」がはっきりとしている方も、そうでない方も、何事もなかったかのように淡々と日常業務が行われ、「提案・通知」が着々と会社スケジュール通りにすすめられていく職場の雰囲気「戸惑い」や「疑問」を覚え、また、事あるごとに流されてくる私たちとのたたかいの会社発信の交渉経過レターを目にするにつけ、その会社の攻撃に「不安」や「恐れ」を隠せないのではないのでしょうか。まさに三寒四温で表現するところの「寒」です。一方、組合の集まりに参加すると、同じ境遇の者たちが普段感じている疑問や戸惑いを口にする事で気持ちが安らぎ、働くものの視点からの主張や分析に共感を覚え、このたたかいの正当性を再確認することで、「勇気」や「自信」を与えられます。三寒四温で表現するところの「温」です。春になるまでの道のりは、まさにこの繰り返しの繰り返しではないのでしょうか。

三寒四温を繰り返して春になるという事実を体験している人、日本の四季を何年も経験している人、すなわち、私たちの組織で言えば、本部や「アドバイザー」と呼ばれる方々は、いまが何月何日で、いつになったら本当の暖かさが来て、三寒四温のなかで感じる「暖かさ」や「寒さ」が一時的で不安定なものだということを知っています。彼らは、実体験のなかで、いま私たちが直面しているたたかいの全体像をしっかりと把握し、たたかいの相手である東海経営がいまどういう状態で、なにを狙い、なにを目論んでいるかも正確に読んでいます。そのうえで、いま私たちに必要なことは「惑わされないこと」だと言っています。私たちの「不安」「恐れ」「戸惑い」を充分理解したうえで、「惑わされるな」と忠告しています。

彼らは、私たちの「進路」について、決して「こうしなさい」ということは言いません。しかし、なにが正しい道で、どこにいたことが実は一番安全で、どうすることが三寒四温におけるベストの過ごし方なのか、熟知しています。

それに私たちが気づくのを気長に待っています。私たちの腑に落ちるのをじっと待っています。

私たちはなぜ全損保に残ったのでしょうか？ 私たちはなぜ平たんな道を選ばず、わざわざイバラの道を選択したのでしょうか？ この問いかけをあらためて自らにしてみれば、「進路」の答えは自ずと出るのではないのでしょうか。「寒さ」に惑わされず、「暖かさ」にはしゃぎすぎず、さりとして必ず訪れる春の到来にしっかり備える。これこそが三寒四温の過ごし方だと思います。